

わがまち 気になるランキング

山岳、農産物、暮らしやすさ……。安曇野市には、全国に誇る特長が数多くあります。今月号は、ランキングを通じて知られざる地域の魅力を探ります。

平成22年の調査で県内1位であった「製造品出荷額等」。令和元年調査では4,592億5,924万円で県内5位でした。安曇野市は松本市・諏訪市などと並び電気機械産業の集積地。農業や観光業ばかりでなく、工業も盛んな地域といえます。

5位

(工業統計調査2020年確報)
4人以上の事業所

**製造品出荷額等
県内**

1位

(平成27年環境省記念事業)

環境省が名水百選30周年を記念して実施した人気投票「名水百選選抜総選挙」。「観光地」、「景観」の両部門で、安曇野わさび田湧水群が全国1位となりました。名実ともに安曇野は水の郷といえます。



**いい部屋ネット
住み続けたい街
県内**

1位

(いい部屋ネット住み続けたい街
ランキング2021〈長野県版〉)

建物賃貸業などを行う大東建託株の2020～2021年調査。5,324人の回答結果から、安曇野市は県内の「住み続けたい街」ランキングで偏差値が71.2と、1位でした。(2位：松本市、3位：下諏訪町)。また、同社の「住み続けたい街ランキング2022」では、5位となりました。



**環境省
名水百選総選挙
景観・観光地部門
全国**



**10アール当たりの
水稲収穫量
全国**

4位

(令和3年作物統計調査)

肥沃な大地と高い農業技術により作られる安曇野市のお米は、全国に誇る特産品です。昨年の作物調査では、10アール当たりの水稲収穫量が670kg。全国4位でした。(1位：山形県中山町 676kg、2位：青森県つがる市 675kg、3位：山形県天童市 671kg)

雑誌「山と溪谷」読者アンケート

**泊まってよかった山小屋
全国1位
燕岳の燕山荘**

北 アルプスの女王と称される燕岳(標高2763m)の稜線上にある山小屋「燕山荘」。

山岳雑誌「山と溪谷」による平成27年の読者アンケートで、「泊まってよかった山小屋」と「泊まっていたい山小屋」の両方で1位を獲得しました。また、登山WEBメディア「YAMA HACK」のアンケートでは、燕岳が「死ぬまでにもう一度登りたい山」で富士山と並ぶ1位の栄冠に。燕岳登山の魅力の一つに燕山荘を挙げる読者も多くいました。その魅力を探るため、燕山荘に宿泊しました。

数々のおもてなし 好評の夕食

「ゆっくりお休みください」。燕山荘の玄関をくぐると、スタッフが温かな笑顔で迎え入れてくれました。室内やトイレは掃除が行き届いており、山の上にいることを忘れそうです。この日の夕食は熱々のハンバーグやサラダ、みそ汁などで、おかわり自由のご飯もとてもおいしく、他の登山客からも好評。燕山荘の赤沼健至社長による写真を交えたトークやアルプホルンの演奏もあり、思い出に残るおもてなしが目白押しでした。

山を好きになってほしくて

「汚い」や「ご飯がおいしくない」といった、山小屋に共通する悪い印象を一つ一つなくす努力を重ねてきました。約30年前に社長に就任した赤沼さんは、「美しい燕岳と同じように山小屋も美しく保たなければいけない」と考え、自ら率先して掃除に取り組みました。最初は従業員からの反発もあったといいます。徐々に賛同者が増え、「知らないうちに全国1位に選ばれていました」と笑います。燕山荘は令和3年、100周年を迎えました。赤沼さんは「多くの人に山を好きになっていただくために燕山荘があるようなもの」と話し、これからも多くの登山客を優しく迎え入れます。



燕山荘の前で「全国1位は先代たちとスタッフのおかげ」と話す赤沼社長



学校登山でもなじみの深い燕岳。その拠点となる燕山荘は、品数が多くボリュームのある食事(左写真中段)と清潔な室内(下段)で、全国的に評価が高い。



コラム 日本の標高ベスト10の山 全て安曇野から見られる!?

日本の標高ベスト10に入る全ての山は、市内から撮影できることをご存じですか? 証明したのは、写真愛好家の小川原幸雄さん(87歳・豊科光)。設計事務所を営む小川原さんは、設計のソフトを駆使し、撮影ポイントを探索。富士山は三郷小倉の展望台、奥穂高岳は明科東川手の市道上などで撮影しました。小川原さんは「登山口だけでなく、眺望の地としての安曇野の魅力を多くの人に知ってもらえれば」と話します。

